

# くすのき

校訓「かしこく やさしく たくましく そしてふるさとを愛する子どもに」

西合志第一小学校  
学校だより 第68号  
文責 校長 西村羊治

HPQRコード 令和7年2月3日

## そうじ

「そうじとは、掃いたり拭いたりすることによってゴミやシミなどの汚れを取りのぞくこと。」とウィキペディアに解説してありました。もちろん「そうじ」そのもののことと言えばその通りです。私は、心を耕し豊かな心を育むものもあると考えています。自分ことを言うのはよくありませんが、私は小学生・中学生・高校生とそうじはきちんとやってきたと自信を持って言えます。学生の頃はただ掃除時間があるからとか、きれいになると気持ちいいからだけでやっていましたが、教師になってからは少し考え方の幅が広がりました。掃除してきれいになるのは気持ちいい、自分が使わせてもらう場所をきれいにするのは当たり前、みんなとの協力も気持ちがいい、自分だけしないとみんなが困る等ということもあります。特別支援学校に勤務していたとき、ダウン症と肢体不自由が重複している中学生を担任させていただきました。その生徒は、掃除時間にたったの1m<sup>2</sup>しか床を拭かないのです。健常者にとってはたったの1m<sup>2</sup>ですが、その生徒にとっては「たったの」ではありません。手足が自由に動かないのです。でも掃除時間の15分、一生懸命その1m<sup>2</sup>の床を、動く範囲の手で拭き続けるのです。その姿は34年経った今でも鮮明に覚えています。西合志第一小学校のみんなも、毎日使う学校に感謝の気持ちを持ち、みんなで気持ちよくそうじをしていきましょう。



一生懸命床を拭く児童

## たこあげ

「わー、きゃー、おー」運動場から子ども達の元気な声が聞こえてきました。運動場を見ると、1年生がたこあげをしているではありませんか。白い可愛いたこでした。20人のみんなが、自分のたこを上手にあげていました。スマホでゲームをしている、ユーチューブを見ている子どもとは違いました。もちろんスマホが悪いとは言ってません。寒い運動場に出て、元気に走り回りながらたこがあがり、そのたこを引っ張る感触を手で感じながら楽しんでいる様子が、私にはとても懐かしく心が温かくなりました。私には東京に就職した息子がいます。20年前その息子が初めてたこあげをしたとき、たこ糸が引っ張られる感触を手で味わいながら「ニヤニヤ」と本当に嬉しそうに笑っていたことを思い出しました。私も子どもの頃、たこあげをしていたときの手の感触が楽しかったことを覚えています。今ではほとんど見られなくなった光景ですが、学校の授業を通して子ども達はたこあげができます。今回の取組は、1年生の生活科の学習で行ったとのことでした。飛ばしているときに数名のたこ糸が絡まってしまいましたが、それも含めていい経験です。

古き良き時代の日本の文化、できる限り守っていきたいものです。



たこあげを楽しむ子ども

## 新しい先生

2月3日(月)より、新しく本校の教員業務支援員として豊住千秋(とよすみ ちあき)先生が赴任されました。子ども達のためにがんばってくださいます。どうぞよろしくお願ひします。

